



陸上自衛隊の隊員から救助の装備品について説明を受ける児童たち＝2日、防府市浜方

# 自分の命自分で守る

## 防府・中関小で防災学習

防府市浜方の中関小学校(大坪勇一校長)で2日、自衛隊、消防と連携した防災学習があり、全校児童と近隣の保育・幼稚園児、地域の人ら計約千人が参加した。

東日本大震災から12年を迎えるのを前に、大規模な地震を想定した避難訓練を実施。児童たちは緊急地震速報を受け机の下に身を隠した後、揺れが収まったのを確認してグラウンドへ避難した。陸上自衛隊防府分屯地に所属する第13飛行隊

が、屋上から要救助者を多目的ヘリコプターUH-1Jで救助する訓練を見学。校舎の上空でホバリングする機体から隊員が屋上に降り、負傷者をつり上げて救助すると、歓声を上げていた。

訓練の後、ヘリコプターや自衛隊と市消防本部の車両をグラウンドに並べ、隊員らが装備品などを説明。同飛行隊長の小野恭良(2等陸佐(40))は「一人一人を助けるのにすくなく時間がかか

る。一人でも多くの人を救うために、避難ができる時はみんなが協力して助け合いながら避難してほしい。たとえ一人になったとしても諦めないで救助を待ってほしい」と呼びかけた。

6年の藤田琥多朗君(12)は「地震が発生したら机の下に隠れるなどして自分の命は自分で守りたい。自衛隊のヘリコプターが救助する訓練を見て、人を助けることの大変さが分かった」と話した。

「防災学習」

令和5年3月3日  
山口新聞